

第41回 桜大学講座

高遠町公民館

第1講座	江戸時代のはじめ、高遠藩主保科正之公は山形藩主を経て会津藩主になりましたが、高遠時代から保科家に仕えていた武士を「高遠衆」と言います。その高遠衆の末裔(まつえい)の中に、江戸から昭和を生き抜き、科学者、教育者として数々の偉業を成し遂げた「山川健次郎」という大人物がいます。会津に生まれ、日新館に学び、戊辰戦争では白虎隊士として籠城戦に参加。維新後、アメリカ留学、東京帝国大学教授を務め、理学博士の学位を受け、X線の実験に成功します。東京・九州・京都の各帝国大学の総長を歴任し教育制度の確立に尽力します。今講座では、徳行高く学問に通達した山川健次郎の生涯に学び、併せて正之公を偲びます。	期日	平成31年4月28日	 <p>森 武久 氏</p>
	演題	「評伝 山川健次郎」 —高遠衆の末裔—		
	講師	山川健次郎顕彰会事務局長 森 武久 氏		
第2講座	2018年平昌五輪で小平奈緒選手がスピードスケート女子500mで金メダルをとりました。それ以上に世界中に感動を呼んだのは、小平選手が韓国の英雄イ・サンファ選手にそっと寄り添い、肩を寄せ合ってリンクを回った光景でした。スポーツは相手がいるから競い合うことができます。敵ではなく、競い合うことのできる仲間がいるから自己を高められるのでしょうか。そんな小平奈緒選手や、かつて活躍した清水宏保選手の担当コーチとして活躍中の結城匡啓氏に、「学ぶ楽しさを知る」と題してご講演していただけることになりました。「学びとは創造すること。」と小平選手は言っています。学びの本質に迫るお話が聞ける機会です。	期日	令和1年8月25日	 <p>結城 匡啓 氏</p>
	演題	「学ぶ楽しさを知る」 ～金メダリスト小平奈緒の成長を支えて～		
	講師	信州大学教育学部教授 結城 匡啓 氏		
第3講座	石の思い出と言えば、平らですべすべした石を選び、川に向かって思い切り投げた水切り遊びを思い出します。友だちと競争しながら夢中になって遊びました。大人になってからは、石との関わりはほとんどなくなったような気がします。皆さんはどうでしょうか。しかし、私たちのすぐ近くに、石の加工に情熱をかけている方や、石とともに生活することに幸せを感じている方がいらっしやいます。石とともに生活をしている、唐木屋石材工芸会長の唐木一平さんを講師にお招きしました。高遠石工はもちろん、高遠にちなんだお話や石材加工の歴史を聞くことができそうです。石に関心のある方もない方も、興味あるお話が聞けることは間違いありません。	期日	令和1年9月28日	 <p>唐木 一平 氏</p>
	演題	「石にたずさわって生きる幸せ」		
	講師	唐木屋石材工芸会長 唐木 一平 氏		
第4講座	9月18日(水)高遠町文化体育館において、高遠町の小中学生全員が参加した、高遠食フェスが開催されました。その中のブースの一つに「内藤御膳」がありました。7代藩主内藤頼寧が参勤交代の折、御堂垣外の本陣にとまった際に食されたメニューが並び、子どもたちは目を輝かせて担当者から説明を聞いていました。今回の桜大学では、内藤家からの下賜品(いただきもの)をもとに、家臣や領民とのかかわりについてお話をお聞きします。どのようなものが下賜されたのでしょうか。ひょっとしたら皆さんのお家にも潜んでいるかもしれません。高遠町歴史博物館学芸員の福澤さんが分かりやすくお話していただきます。	期日	令和1年11月23日	 <p>福澤 浩之 氏</p>
	演題	「知っておきたい殿様とのかかわり」 —内藤家の下賜品とその記録—		
	講師	伊那市高遠町歴史博物館学芸員 福澤 浩之 氏		

第42回 桜大学講座

高遠町公民館

第1講座	令和3年度に延期	期日	令和2年4月29日	 平山 優 氏
		演題	「戦国大名武田氏と伊那・高遠」	
		講師	武田氏研究会副会長 平山 優 氏	
第2講座	中止	期日	令和2年6月27日	 鉢嶺 猛 氏
		演題	「頻発する水害・土砂災害に備える ～命を守るために～」	
		講師	元東京管区気象台長 鉢嶺 猛 氏	
第3講座	高遠町の市街地や郊外を歩いてみると、各寺院の境内や道端に数多くの石造物が並んでいるのが目につきます。芸術的な価値の高いものからそうでないものまで様々ですが、いずれも私たち郷土の人々の信仰の対象であったことに変わりはありません。それらの石造物の中には、最近注目されている高遠石工の石造物が多くあります。江戸時代に高遠石工の名は全国にとどろき、高遠石工の作品はブランドとして価値をもちました。現在各地では、高遠石工の作品は大事にされ、見直しが続いています。 ふるさとの宝である高遠石工の作品に迫りながら、それに合わせて当時の人々の暮らしや信仰と結びつけながらお話をお聞きします。	期日	令和2年11月28日	 熊谷 友幸 氏
		演題	「高遠石工の魅力」 ～伊那谷、高遠をめぐる小さな旅～	
		講師	一般社団法人高遠石工研究センター 熊谷 友幸 氏	
第4講座	令和3年度に延期	期日	令和3年1月30日	 伊藤 純郎 氏
		演題	「満州移民と高遠町」	
		講師	筑波大学教授 伊藤 純郎 氏	

第43回 桜大学講座

第1講座	<p>高遠城が改修されたのは天文16（1547）年頃、武田信玄が諏訪から伊那に抜ける伊那地方支配の拠点として、優れた築城技術をもつ山本勘助などに命令して改修されたものと言われています。以来、激しい変遷を経て今日に至っています。また、武人の鑑としてあがめられ、県歌「信濃の国」にも歌われる信玄の五男、仁科五郎盛信とはいったいどんな人物で、高遠とのかかわりはどうだったのでしょうか。さらに、保科正之公は幼少のころ、信玄の娘である見性院に育てられています。武田家と高遠。知っていそうで知らないことがたくさんあります。今回は武田研究の第一人者である平山優先生をお迎えし、「武田氏の伊那統治について」と題してご講演していただきます。</p>	期 日	令和3年4月29日	 平山 優 氏
	演 題	「武田氏の伊那統治について」		
	講 師	武田氏研究会副会長 平山 優 氏		
第2講座	<p>今年の高遠コヒガンザクラの開花宣言は3月26日で、満開になったのは4月1日でした。かつてない早い時期の開花となりました。地球温暖化や異常気象が叫ばれています。私たちの身近なところでも肌で感じ取ることができます。令和元年10月、台風19号が日本列島を襲い、長野県でも千曲川の堤防が決壊し、多くの被害をもたらしました。激甚災害、特定非常災害という言葉を目にするようになりました。翌年の令和2年7月には、伊那市美篁下県で三峰川の堤防がおよそ80mにわたり崩落しました。自然科学者でありながら、随筆を多く残している寺田寅彦は「天災は忘れたころにやってくる」という言葉を残しています。第2講座では、阪神・淡路大震災の際、タンスの下敷きになったことを契機に、内定先の会社を1年でやめ、東京大学大学院で防災研究に没頭された秦康範先生に、地域防災についてご講演していただきます。</p>	期 日	令和3年6月26日	 秦 康範 氏
	演 題	「近年の自然災害事例に学ぶ 地域防災の取り組み」		
	講 師	山梨大学准教授 秦 康範 氏		
第3講座	<p>「満州は日本の生命線」と言われ、昭和7年に満州国が誕生しました。満州移民政策は、計り知れない資源と広大で未開の原野を開拓して「王道楽土」を築き、国内の人口・経済問題を解決すると同時に、軍事的にも北の守りを固めようとする国策の一環として計画され、推進されました。しかし、昭和20年8月9日、対日宣戦布告したソ連軍が次々に満州を南下、「王道楽土・五族協和」の夢は一瞬にして消え去り、極度の混乱暗澹たる状況の中、多くの日本人が命を落とすこととなりました。今、日本や世界の状況に目をやれば、いのちの尊さや平和に対する危機感を抱かざるを得ない出来事も少なくありません。しかし、私たちは過ぎ去りし日々を思いを寄せると同時に、戦後75年を過ぎてなお、これらの事実を決して風化させることなく、真摯に学び、永久平和への努力を改めて誓います。</p>	期 日	令和3年10月23日	 伊藤 純郎 氏
	演 題	「満州移民と高遠町」		
	講 師	筑波大学教授 伊藤 純郎 氏		
第4講座	<p>中国湖北省武漢市で確認されて以来、瞬く間に世界中に広がった新型コロナウイルス。その猛威は今もとどまるところを知らず、新たな感染者や死者が連日報告されています。日本、そして世界各国の経済は大きな打撃を受け、マスクをつけた人々の姿は、もはや「日常」となりました。この影響を受けているのは経済だけではありません。コロナウイルスは私たちの心にも感染しているのではないのでしょうか。日本では最近、数多くの地震や台風、豪雨などの自然災害に見舞われています。私たちはそれらの災害を受けた人々に対して、ねぎらいや無事を祈りながら心を寄せることが多かったように思います。しかし、このコロナの状況はどうもそうではありません。確実に私たちの心に襲い掛かっています。人と人を遠ざけ、社会のあり様までも破壊しています。このような時、私たちはどう生きるのか。前信濃教育会会長が長年の経験から皆様方に熱く語りかけます。</p>	期 日	令和3年11月20日	 後藤 正幸 氏
	演 題	「コロナ禍の時こそ心豊かに生きる」		
	講 師	前信濃教育会会長 後藤 正幸 氏		

第44回 桜大学講座

第1講座	<p>中村先生には、平成14年度の桜大学において、「保科正之の人と生涯」と題してご講演をいただいております。大変好評であり、コロナ禍ではありますが先生に再講演をご快諾をいただきました。</p> <p>世の中はコロナ色であり、私たちの生活も大きく変えざるを得ない日が続いています。数々の大改革を成し遂げた正之公が今の時代に生きていたならば、どのような考えをもち、どう行動していたのでしょうか。興味のあるところです。先生には正之公についてじっくりと語っていただけるとおもいます。直木賞作家の先生のお話を聞くことのできる絶好の機会です。ぜひご聴講をお願いいたします。</p>	期 日	令和4年4月29日	
		演 題	「徳川の平和」を実現させた名君 保科正之	
		講 師	直木賞作家 中村 彰彦 氏	
第2講座	<p>2020年1月、中国湖北省武漢市で確認されて以来、瞬く間に世界中に広がった新型コロナウイルス。その猛威は今もとどまるところを知らず、新たな株が次々と現れ、私たちの周りでも感染者が連日報告されています。3年目になり、医療現場で働く皆さんの苦労は計り知れないものがあると思います。感染者が出始めたころ、親が医療従事者であったため、いじめを受けた小学生がいたという悲しい話も聞きました。</p> <p>今回の桜大学では、コロナ対応の医療現場のすがた、また伊那中央病院が誇る日本の最新医療等について、同院長の本郷一博先生が講演していただきます。めったに聞くことのできないお話です。多くの皆様のご聴講をお待ちしております。</p>	期 日	令和4年6月25日	
		演 題	「新型コロナウイルス感染症と伊那中央病院における最新医療あれこれ」	
		講 師	伊那中央病院 院長 本郷 一博	
第3講座	<p>東京2020パラリンピックは、1年延期された2021年8月24日に開幕を迎えました。数々のドラマを生み出してきた「日本史上最強」の車いすバスケットボール男子日本代表チームは、決勝戦でアメリカチームに惜しくも敗れるものの、見事銀メダルを獲得しました。世界一を争う決勝戦まで勝ち上がったことは大変な躍進です。また、車いすを激しくぶつけ合いながら攻防する様子は、車いすバスケットボールならではの面白さであり、障害を抱える皆さんの努力も含め、私たちの想像を絶するものがあると思います。今回は、銀メダル獲得に貢献した長野市出身・藤澤潔さんを講師としてお招きすることができました。藤澤さんの歩みや、車いすバスケットボールにかける思いの中から、私たち自身の生き様について考える機会にいただければ幸いです。</p>	期 日	令和4年10月22日	
		演 題	「パラリンピックへの挑戦～銀メダル獲得までの道のり～」	
		講 師	東京2020パラリンピック 銀メダリスト 藤澤 潔 氏	
第4講座	<p>方言は、私たちの生活と密接に結びついています。</p> <p>普段の生活の中で、方言でなければ言い表せないような状況が多々あったり、自分では意識していなくても方言を使ったりしている時があります。方言を使うことに気が引ける方があるかもしれませんが、これからも大切にしていきたい一つの言語文化ではないでしょうか。</p> <p>昭和年代にテレビの普及により標準語が浸透し、また生活様式の変化により、多くの方言が失われました。今回の桜大学では、方言研究の第一人者である、伊那西高校の出野憲司校長先生が、方言と暮らしに視点を当て、ご講演していただきます。なつかしい方言が出てくるかもしれません。多くの皆様のご聴講をお願いいたします。</p>	期 日	令和4年11月26日	
		演 題	「暮らしに生きる方言 ～上伊那の方言を中心に～」	
		講 師	伊那西高等学校 校長 出野 憲司	

第45回 桜大学講座

第1講座	幕末最後まで徳川将軍家への忠誠を誓い義を貫き戊辰戦争を戦った会津藩。その独特の藩風を形作ったのが初代藩主、保科正之公。正之の後裔である松平保久氏が高遠と会津の縁を探る。会津松平家14代当主。1954年東京都生まれ。学習院大学法学部を卒業後、NHKに入局。NHK退職後は（株）東洋ワーク名誉会長、ボナリ高原ゴルフクラブ理事長、NHKエンタープライズフリープロデューサーなどを務める。2011年8月に父・保定の跡を継いで14代当主に。幕末最期の会津藩主、松平容保の曾孫にあたる。歴史講演会、シンポジウムなどで会津藩の歴史、幕末史などを伝えている。座右の銘は「愚直」	期日	令和5年4月29日	
	演題	高遠が培った会津の義		
	講師	会津松平家14代当主 松平 保久		
第2講座	平昌五輪金メダリスト小平奈緒氏をお招きし、講演「人とつながる」を開催します。講師のは小平奈緒氏は、茅野市出身。伊那西高校、信州大学教育学部卒。2014-2016に2年間練習拠点をオランダに移して研鑽を積み、帰国後のシーズンから国内外の500mで2年半負けなしの37連勝を記録（ワールドカップは20連勝）。その間、平昌オリンピックでのスピードスケート日本女子初の金メダル、世界スプリント総合優勝2回などに輝いた。2022年10月競技生活のラストレースとなった全日本距離別選手権女子500mを8連覇13回目の優勝で有終の美を飾った。11月より信州大学の特任教授に就任。現在は、講演やイベントに充実した毎日を送っている。	期日	令和5年6月10日	
	演題	人とつながる		
	講師	平昌五輪 スピードスケート女子金メダリスト 小平 奈緒		
第3講座	教科書も教育法も無かった時代、その両方をゼロからイチにした伊澤修二がなにを原動力にしていたのか。塚田館長が語ります。講師は塚田博之（つかだひろゆき）氏。1961（昭和36）年1月31日、長野市の生まれ。大学では近現代史を学び、上伊那を中心に中学校などで社会科教師を務め、2020年度、伊那市立富県小学校を最後に退職。在職中は上伊那教育会郷土研究部で伊澤修二資料の整理と研究を継続した。退職後は上伊那教育会郷土研究部専門幹事を経て、今年4月から伊那市立高遠町歴史博物館館長を務める。	期日	令和5年10月14日	
	演題	伊澤修二はなぜ日本に西洋音楽を取り入れたのか		
	講師	高遠町歴史博物館 館長 塚田 博之		
第4講座	満州へ行けば20ヘクタールもの農地の地主になれる、国からも補助金が出る・・・このような宣伝がされ、満蒙開拓は行われました。全国から27万人、なかでも信州からは3万3千人もの人々が開拓のため満州へ移住しました。歴史を学び、これからを生きる道しるべにしましょう。講師は三沢亜紀氏、1967年生まれ、広島県出身。1994年飯田市へ移住。15年間ケーブルテレビ局に勤務し番組制作に携わる。2009年12月より満蒙開拓平和記念館の開館に向けた記念館事業準備会事務局員。現在は満蒙開拓平和記念館（阿智村）事務局長。	期日	令和5年11月18日	
	演題	『満蒙開拓』という歴史が語りかけてくるもの		
	講師	満蒙開拓平和記念館 事務局長 三沢 亜紀		